

「きせつをさがそう」(生活科：2年C組)

三重大学教育学部附属小学校教諭 志賀 剛

I はじめに

生活科に於ける教科目標は、学習指導要領に「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な生活習慣や技能を身につけさせ、自立への基礎を養う。」と記されている。また、学習内容については、8つの内容が示されている。本実践は、その8つの内容の中で、「季節の変化と生活」に関わる内容である。本題材では、運動場の草花や木、生き物などを継続して観察することで、それぞれの季節に見られる特徴を捉えたり、季節に見られる特徴や変化を比較・関連させることで、その子なりの気づきを見出したりすることをねらいとしている。その中で、身の回りの自然に愛着をもち、自然環境を大切にしていこうとする態度を育て、今後の環境教育につながる取り組みにしていきたいと考えた。

II 題材について

本題材では、運動場にある草花や木、生き物などを、春・夏・秋・冬と継続的に観察し、それらを絵や文でまとめたり、交流したりする活動を行う。

季節によってその様子や変化を捉えやすい草花や生き物は本校でもたくさん見ることができる。また、本校の運動場には、桜・銀杏などの季節によって変化が捉えやすい木もたくさんあり、その樹木の名前は理科クラブによって示してもらってある。これらのことから、子ども達にとって、身近に草花や木、生き物などを目にしたり、触ったりできる活動環境にある。しかし、子ども達は、休み時間に外遊びをする子どもも多くいて、季節による草花や木、生き物などの様子や変化を目にしているにも関わらず、その様子や変化を自覚できていない子どもも多い。このような子ども達に、継続的に草花や生き物について観察させることで、身近な自然に対する無自覚な気づきを自覚させると共に、それらへの興味・関心を高めたいと考えた。



理科クラブにより掲示された樹木プレート

Ⅲ 観察する子ども達の様子

授業の中では、春・夏・秋・冬の季節ごとに運動場に行き、「春さがし」「夏さがし」「秋さがし」「冬さがし」を行った。次の写真は、「夏さがし」と「冬さがし」の時の様子である。

「夏さがし」の様子



夏は、木の葉も生い茂り、葉の色も濃く、その様子を興味深く観察する姿が見られた。また、草の中にあるバッタやカマキリなどの生き物を友だちと協力しながら捕まえようとする姿も見られた。春や夏は、子ども達にとって、興味を引くものが多く見ることができた。

「冬さがし」の様子

冬は、春・夏・秋と比べ、元気な草や、綺麗に咲く花、活発に活動する生き物が見られにくい。しかし、その冬の様子を他の季節と比較した時、子ども達は様々なことに気づいたり、疑問を持ったりした。次の写真は、落葉してしまった木を見て、春の頃、夏の頃、秋の頃どうだったのかを言い合っている写

真（写真1）と、落葉してしまっている木が多いのにどうしてこの木は緑色なのか疑問を持った様子の写真（写真2）である。



写真1



写真2

子ども達の書いた観察カード

4がつ16にち(木) なまえ

春さがし

はなをみながらおんがくをうたうとき
おんがくにいどころもあつた。はなは
おいてたよりながかつた。

4がつ16にち(木) なまえ

春さがし

いろのきれいなペンギンが
いっぱいあります。ええから
見るときれいで、ペンギ
のくさか下からええペンギ
をかくしました。

7がつ14にち(火) なまえ

夏さがし

さんかく 図で見つ
た木です。

7がつ14にち(火) なまえ

夏さがし

ひまわりはたねが
くまにはやさしいおなじ
まがありました。わたしは
かあるのやさしいかなと
思いました。

11がつ16にち(月) なまえ

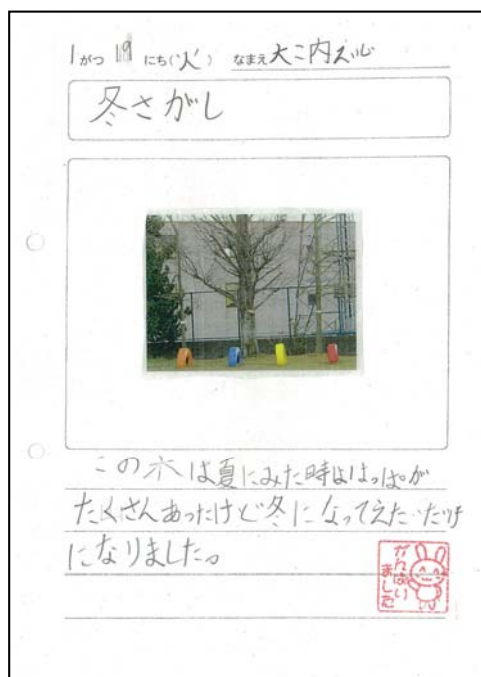
秋さがし

ケアキがはらばら落ちて
はたかになつていて
秋だなと思いました。
ほんまは、かえりそ
うした。

1がつ19にち(火) なまえ

冬さがし

木には、赤色だ、木の
ちいさな葉っぱが、
はらばら、ちいさな
んだなと思ひました。



IV おわりに

1年間、継続して季節ごとに運動場の季節探しを行ったことで、それまでは何気なく、意識せずに見ていた草花や木、生き物などを意識して見ようとする子どもが増えた。また、草花や木、生き物などの様子や変化を季節の移り変わりを意識して捉えることができたり、季節の違いによる草花や木、生き物などの様子や変化を比較して捉えることができたりする子どもも増えた。それぞれの季節を観察して見出した気づきは、子どもによって様々であるが、その子なりの気づきを興味・関心に応じて見出すことができた。

今後子ども達の自然環境やその中の事象に出合った時に、今回の取り組みでの経験が少しでも活かされることを期待している。子ども達の草花や木、生き物などを観察する様子から、子ども達は、身の回りの自然についての興味・関心を持っていることを実感した。その興味・関心が子ども達の成長過程に於いて、一層高まっていくような学習や経験がこれからもできれば良いと考える。